

新型コロナウイルスワクチン接種を担う人材の確保について

新型コロナウイルスワクチンの接種について変異株の拡大などにより、全国的に厳しい感染状況が続いており、コロナ収束の「切り札」とされるワクチン接種への国民の期待はますます高まっています。

現在、7月末までの高齢者接種の完了に向け、地方においても総力を挙げて取り組んでおり、総務省と厚生労働省の調査によれば、約 93%の自治体が7月末までの完了を見込んでいます。

しかし、7月末の完了を見込んでいる自治体の中にも、医療従事者の確保等を前提に回答した団体が含まれているなど、依然としてワクチン接種体制の確保が課題となっています。

各都道府県におかれては、医師、看護師といったワクチン接種を担う人材の確保を促進する観点から次の点にご協力をお願いします。

- 医師については、厚生労働省が運営する求人情報サイト「医療のお仕事 Key-Net」を活用し、医師と自治体を無料でマッチングする仕組みが整備され、既に2,600名を超える医師が登録されていますが、自治体の登録が30程度にとどまっています。また、日本医師会女性医師バンクにおいても、全国で約2,724名の医師が登録されています。
- 看護師については、都道府県看護協会・ナースセンターに、全国で約4,200名の看護師が、ワクチン接種に係る研修を終え、すぐに接種会場で勤務できる状況にありますが、厚生労働省によれば、同センターを通じて復職し、ワクチン接種業務に従事している看護師は約600人とどまっています。
- 新型コロナウイルスワクチンの接種体制の強化に向けた「Key-Net」、都道府県看護協会・ナースセンター等の積極的な活用について、令和3年5月26日付けで厚生労働省から各自治体宛てに依頼があったところですが、各都道府県においても、ワクチン接種を担う人材の確保が十分に図られるよう、改めて管内市区町村に対する周知を行っていただくなど、ご協力をお願いします。

令和3年5月29日

全国知事会 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種特別対策チーム